



ぐるっと
250キロ

ぐるっと250キロ 佐和田 チューリップ大作戦といも煮会

11月6日(日)地域のボランティアグループ「八幡銀杏の会」主催のいも煮会が八幡小学校体育館で行われました。当日は越の松原の復活を目指しお奉行様に仮装した校長先生と一緒に200人の参加者により約200本のクロマツを植樹しました。その後八幡小学校の児童達が1880鉢のプランターに約2万個のチューリップの球根を植えました。作業終了後、特別養護老人ホームやはたの里の入居者も招待され、参加者全員で地場野菜の八幡いもを使ったいも煮をいただきました。北風の吹く寒いなかでの作業で体は冷えたけど、大鍋で煮たアツアツのいも煮で心も体も温まり、植樹作業の疲れを労いました。



ぐるっと250キロ 赤泊 赤泊小学校 創立130周年記念式典

11月12日(土)文化祭に合わせ、赤泊小学校創立130周年記念式典が、完成したての体育館で、高野市長をはじめ多くの来賓の方々や、保護者・地域の皆様のご列席のもと厳粛に行われました。記念アトラクションとして、羽茂高校赤泊分校と地域有志の皆様との合同で鬼太鼓が披露されるなど、赤泊地域みんなで新校舎とともに完成した体育館のお披露目も兼ね、二重の喜びを表しました。その後児童の合唱や踊りなどのアトラクションが行われ、最後に全校児童による「喜びの言葉」を大きな声で発表し、感動的な式典に幕を下ろしました。私たちは130年の伝統と希望を胸に未来に向かってはばたきます!!



ぐるっと250キロ 佐和田 越の松原再生プロジェクト

11月13日(日)9時から花プロさわたでは、越の松原再生プロジェクト第2弾として、トライアスロン会場でも利用される河原田公園に、黒松23本と今月淡路島から送られてきたハマボウという苗木13本を植栽しました。越の松原は、花プロさわたのメインテーマであり10年という目標を掲げています。



ぐるっと250キロ 両津 湊の見どころ一挙紹介(湊いっき)

11月13日(日)湊中心街で「湊いっき」が開催され、「昔に出会う町湊」というテーマのもと、昔なつかしの味、風景が紹介されました。今年は「炉端を囲んで焼きたての魚をみんなで味わってらおう」ということで、「千人ろばた」が初めて行われ、大きな囲炉裏で焼いた新鮮な魚が販売され、またバーベキューコンロを使い自分で焼いて食べることもできました。また恒例となった「昔の写真展」では、昔の町並みが紹介され、懐かしそうに写真を眺めている人もいました。会場を訪れた人々は、古き良き湊を知り、またそこに住む方々の人情に触れることのできた一日となりました。



ぐるっと250キロ 両津 島内最大級のフリーマーケット (リョウツ・デ・フェスタ)

11月3日(木)夷中心街で「リョウツ・デ・フェスタ」が開催され、会場は大いに賑わいました。この催しは昭和63年に「商業感謝祭」ということで開始され、平成11年から「リョウツ・デ・フェスタ」と名前を変えフリーマーケットが本格的に始められました。今年は、しばしば雨が降るあいにくの天気でしたが、家族や気の合う仲間などが集まり160店舗前後が出店し、約1万人の来場者が様々な掘り出し物を求めて会場に足を運びました。フリーマーケットでは古着や食べ物、植物、雑貨などが販売され、またもちつきやコーラスの発表など様々な工夫が凝らされたものもありました。会場を訪れた人々は、色とりどりの品物に目移りしながら楽しい一日を過ごしたようです。

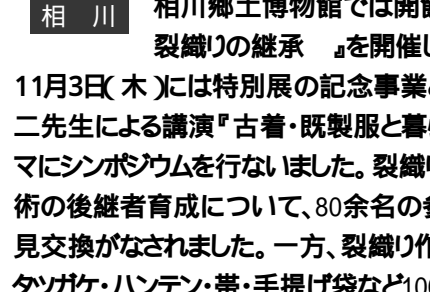


11月3日(木)夷中心街で「リョウツ・デ・フェスタ」が開催され、会場は大いに賑わいました。この催しは昭和63年に「商業感謝祭」ということで開始され、平成11年から「リョウツ・デ・フェスタ」と名前を変えフリーマーケットが本格的に始められました。



ぐるっと250キロ さきお 相川 裂織り作品展・講演会・シンポジウム

相川郷土博物館では開館50周年を記念して、特別展『木綿は語る—裂織りの継承—』を開催しました。11月3日(木)には特別展の記念事業として、沖縄県立芸術大学学長 朝岡康二先生による講演『古着・既製服と暮らしの変容』と『これからの民俗技術』をテーマにシンポジウムを行いました。裂織りの材料である古木綿、古着の流通、織物技術の後継者育成について、80余名の参加者の中からの発言も加わって、活発な意見交換がなされました。一方、裂織り作品展は、裂織り教室の卒業生33名によるコタツガケ・ハンテン・帯・手提げ袋など100点を越える力作が大きな会場を埋めました。また、シンポジウムに参加した、しずくしい麻の会の亀甲織りも展示されました。会場を訪れた方々から、「みごとだね」「すごいね」という感嘆の声があがり、後継者育成コースのシナ・チョマ布も目を引きました。

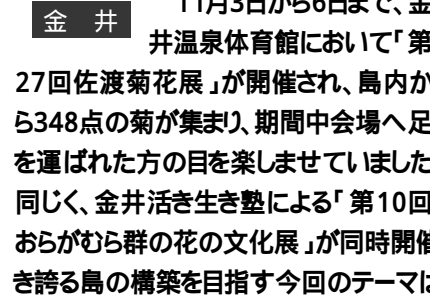


相川郷土博物館では開館50周年を記念して、特別展『木綿は語る—裂織りの継承—』を開催しました。



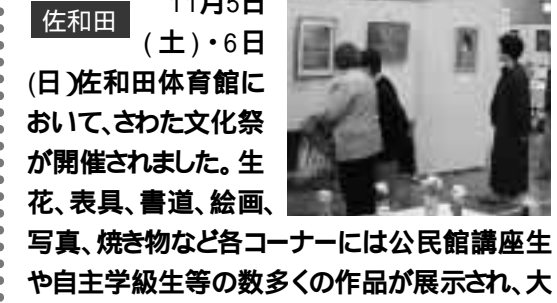
ぐるっと250キロ 金井 佐渡菊花展とおらが群の花の文化展

11月3日から6日まで、金井温泉体育館において「第27回佐渡菊花展」が開催され、島内から348点の菊が集まり、期間中会場へ足を運ばれた方の目を楽しませていました。同じく、金井活き生き塾による「第10回おらがむら群の花の文化展」が同時開催されました。花のように文化咲き誇る島の構築を目指す今回のテーマは、「佐渡葉草の島、花物語」ということで、花にちなんだ作品の展示や体験講座、田中圭一塾長の講演のほか、地域に伝わる故事・民話などを「おらがむら群の花物語」として紹介し、島に生きた先人たちの暮らしの中から島人の花や自然との関わりを模索し学びました。2000人を上回る市民の参加で、全島を視野に多彩に展開されました。



ぐるっと250キロ 佐和田 さわた文化祭

11月5日(土)・6日(日)佐和田体育館において、さわた文化祭が開催されました。生花、表具、書道、絵画、写真、焼き物など各コーナーには公民館講座生や自主学級生等の数多くの作品が展示され、大勢の人達が来場し鑑賞していました。また、今回初めての企画として「体験コーナー」を設け、版画を行いました。この「体験コーナー」では来年度の年賀状を彫りあげ、大勢の参加者の最後までやり遂げた満足そうな表情が印象的でした。また、消費者コーナーとして地域で採れた新鮮野菜の直売もあり賑った文化祭でした。



ぐるっと
250キロ

羽茂

第2回 羽茂うみやあもん祭り

11月23日(祝)B&G羽茂海洋センター体育館をメイン会場に第2回羽茂うみやあもん祭りが開催されました。

当日の出店は地元の商店と生産組合団体約30店舗あり、地場産の果樹・野菜を中心に秋の味覚を買い求める客で賑わいました。またイベントも芸能ステージをはじめ農産物(おけさ柿、アンボ柿、自然薯)品評会、食品屋台、料理(大崎そば、自然薯料理、温泉そば)など様々な催し物が行われ、不安定な天候にもかかわらず他地域からの来場者も多く、羽茂地区の大きなアピールとなりました。会場脇の水田では空散用ラジコンヘリの実演会も開催され、今後環境対策として水田航空防除も廃止の予定であることから農家の関心も高く興味深く見学するなど大盛況のうちに終了しました。



会場脇の水田では空散用ラジコンヘリの実演会も開催され、今後環境対策として水田航空防除も廃止の予定であることから農家の関心も高く興味深く見学するなど大盛況のうちに終了しました。



ぐるっと
250キロ

新穂

いきいき健康まつり

11月26日(土)木のむら元気館でいきいき健康まつりが開催されました。この催しは新穂地区展と併せて毎年開催され、今年は小学生が健康推進員、市民の方々と一緒にそば打ち体験と勾玉づくりにわかれて作業をした後、健康ウォーキングを行いました。参加者は、多少不揃いではあるものの、そば切り用の大きく重い包丁を上手に使いこなし、苦勞の末に出来上がったそばを全員で食べて意気揚々とウォーキングに出かけました。そば打ち体験を思い出し、また、勾玉を手にする度に健康の大切さを理解し、普段から病気をよせつけない身体づくりを心がけて欲しいと思います。



そば打ち体験を思い出し、また、勾玉を手にする度に健康の大切さを理解し、普段から病気をよせつけない身体づくりを心がけて欲しいと思います。



ぐるっと
250キロ

小木地区文化祭 産業まつり

11月23日(水)勤労感謝の日に、小木体育館において「産業まつり」が開催されました。荒天のため海産物の販売はありませんでしたが、地元で収穫された愛情いっぱい新鮮野菜と、夫婦・姉妹・友好港湾都市から、自慢の品を携えて特別参加して下さった皆さんの活気で、開始早々に「売り切れごめん」も見受けられました。また、「あゆす会館」会場では、小木地区文化祭が開催されました。陶芸・絵画・生花・書道・作品等が所狭しと出展され、訪れた方に自慢の作品を説明する製作者の姿も見られました。個人出展された中には、高さ2mを超える4重の塔もあり、すばらしい作品を多くの市民の方が、冬の訪れ間近の一時を、家族や友達と連れ添って楽しんでいました。



自慢の作品を説明する製作者の姿も見られました。個人出展された中には、高さ2mを超える4重の塔もあり、すばらしい作品を多くの市民の方が、冬の訪れ間近の一時を、家族や友達と連れ添って楽しんでいました。

ぐるっと
250キロ

つくしふれあいまつり

11月27日(日)、市民の健康に対する関心が高まっている時代、健康意識と自己管理意識の向上を図る催しが準備され、小木総合福祉センター「つくし」において、「つくしふれあいまつり」が開催されました。悪天候にも係らず、500名の市民が来場され、施設の利用者と一緒にゲームなど楽しんでいました。また、スタッフやボランティアの方々により、手品・舞踊等が披露されると、訪れた市民の皆さんから、感嘆の拍手が起こり、和やかな雰囲気の中で、楽しい一日を過ごしました。



訪れた市民の皆さんから、感嘆の拍手が起こり、和やかな雰囲気の中で、楽しい一日を過ごしました。



ぐるっと
250キロ

真野

佐渡まるごとふれあい市



11月13日(日)島内の農産物直売店や手作り加工品の農家が集まり、「佐渡まるごとふれあい市」が真野活性化センターいぶき21を会場に開催されました。会場では、とれたての新鮮な野菜や愛情たっぷりに育てられた果物などが販売されました。また、人気を集めた太巻き寿司の体験コーナーでは、文銭巻や四海巻といった本格的な太巻き寿司の作り方を学べるとあって、大勢の人垣ができていました。そのほか、餅つき体験では、子供たちが力を込めてついた、あんこ餅ときな粉餅がふるまわれていました。屋外では、ポニー・やぎ・子牛などの家畜とふれあうコーナーが設けられ、子供たちは初めて間近で見るポニーに興味を示しているようで、飼いやをあたえる時の表情も楽しそうでした。



子供たちは初めて間近で見るポニーに興味を示しているようで、飼いやをあたえる時の表情も楽しそうでした。

ぐるっと
250キロ

畑野

畑野ふるさと特産・健康まつり

11月20日(日)、畑野中学校体育館にて「畑野ふるさと特産・健康まつり」が開催されました。特産関係では、畑野地区の農産物・海産物加工品などの展示販売やエビの沖汁のサービスなどがあり、来場者は地元の味を楽しんでいました。健康関係では、医師・歯科医師に日頃気になっていることを相談したり、体脂肪測定や脳梗塞チェック遊びなどで自分の健康状態を確認したりと、改めて「健康」のすばらしさや大切さを再確認していました。この他、福祉バザーや佐渡海洋深層水を使った手打ちそば・餅つきも大好評で人気を集めていました。



医師による健康相談



特産コーナー

この他、福祉バザーや佐渡海洋深層水を使った手打ちそば・餅つきも大好評で人気を集めていました。

ぐるっと
250キロ

新穂

地域のために

11月20日(日)正明寺集落の「食と文化の祭典」が行われ、そば打ち体験や試食会、そして鬼太鼓が披露されました。また、集落内には現在トキの野生順化施設が建設中であり、今後のトキ放鳥に向け、トキと人が共生できる地域づくりを実践している集落の取り組みに共感した篠笛奏者の狩野泰一さんによりコンサートが開かれました。この催しは正明寺集落の年中行事で、ほぼ全世帯から参加者が集うほどお年寄りから子供まで人気を博しており、関係者は地域の協和、関心、活性化につながればと期待を寄せています。



この催しは正明寺集落の年中行事で、ほぼ全世帯から参加者が集うほどお年寄りから子供まで人気を博しており、関係者は地域の協和、関心、活性化につながればと期待を寄せています。



ぐるっと
250キロ

真野

第25回 真野地区福祉バザー

11月20日(日)、真野ふるさと会館を会場に「第25回真野地区福祉バザー」が行われました。この日は、各家庭から寄せられた野菜や食器、衣料品を中心に2600点の多くの品物が販売されました。場内は目的の品物を買いたいと大勢の人たちで賑わい大盛況でした。



多くの品物が販売されました。場内は目的の品物を買いたいと大勢の人たちで賑わい大盛況でした。



この日の収益金404,103円は、真野地区内福祉団体の活動援助金として有効に活用されます。

